IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム
第13回会合 議事録

1. 会合の概要

日時：　2022年1月24日(月)16:00～18:00

会場：　オンライン

主催：　一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

　　一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数：　17

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田	陽一	総務省
加藤	幹之	MK Next
上村	圭介	大東文化大学
河内	淳子	一般社団法人国際経済連携推進センター
木村	孝	JAIPA
佐々木	雅人	フリーランス
佐藤	信二	個人研究者
白壁	角崇	総務省
Suga	Yuji	Internet Initiative Japan Inc.
立石	聡明	JAIPA
中田	諭輔	日本ネットワークイネイブラー株式会社
浜田	忠久	JCAFE
堀田	博文	JPRS
本田	聖	個人
前村	昌紀	JPNIC
森口	友里	株式会社インターリンク
森下	大	総務省
山崎	信	JPNIC

司会進行：　前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成：　山崎 信(JPNIC)

2. 議論の概要

【前村】　　それでは、始めさせていただきたいですけども、私が司会ということでよろしいでしょうか。すいません、遅く来たし、ミュートしてしゃべっていたので、甚だ頼りない感じかもしれないんですけど、異論がなければ、進めさせていただきたいと思います。

活発化チーム13回会合であります。御注意、そこに書いてあるとおりであります。一般的に注意してくださいねということが書いてあります。それで、本日はちょっと時間ずらさせていただいて、その結果で御都合が悪くなった方がいらっしゃったら大変恐縮です。

早速進めましょう、アジェンダのほうに進めてまいりたいと思います。今日の打合せの目的なんですけども、レギュラーでいただいている政府からの検討状況の共有ということと、報告会に向けた準備と、あと本格体制／組織化についてということで、報告会が来週になります、2月の3日になっておりますので、それに向けた準備の確認をさせていただきたいと思っています。

それでは、第12回の会、概要をもうちょっと送っていただいて、総務省からの御報告はMAG周りの動きを御紹介いただきました。河内さんからはMAGメンバーということで御報告いただくところだったんですけども、第１回会合の直前だったということでした。それで報告会のほうですけども、開会、幾つかお話というか確認していきました。開会挨拶、総務省さんにしていただくのがいいんじゃないかということで、御調整いただくことになりました。あと、セッションの中でIGF2021報告に関しては立石さんにお願いをしていて、そのときの状況、以下のような感じだと御説明いただきました。

テーマセッションDFFTのほうなんですけども、もう少し送っていただくと、検討状況とあとユース代表が呼べたらいいなということをおっしゃっていました。その辺も今日アップデートがあるんじゃないかと思います。

あと、組織化のセッション、私のほうがコーディネーションをしているんですけども、そのときにはパネリストというよりも皆さんで考えるということがいいんじゃないかという考えを示しましたということでございます。

以上が前回のあらましです。

それで宿題のほうの進捗の確認なんですけども、こちらのほう山崎さん、何か要点というのか、ポイントはありますでしょうか。

【山崎】　　主に各会合の議事録案が止まっているということで御迷惑をおかけしております。前回より外注にお願いするようにしましたので、スピードアップは図れると思いますが、それまで第8回から11回までのを片づけなきゃいけないというのがあります。直近では、先ほど前村からあったところともダブるんですけども、各セッションのコーディネーターの方に、ToDoがあるということでしょうか。それぐらいです。

以上です。

【前村】　　それでは、次のところまいりましょうか。総務省さんからの御報告をいただきたいと思います。本日はどなたが、飯田さんいらっしゃいますか、飯田さん、よろしく願います。ちょっと待

って、本田さんの手が挙がっています。

【本田】　すいません、その宿題のところで今度から業者を入れたということですが、残っているほうについてはどうなんでしょう。山崎さん、そこのところは。

【山崎】　私がやっております、今第9回に取組中です。

【本田】　第7回、第8回については、映像は多分公開していただいていて。

【山崎】　7はもう議事録、上げましたよ。8はまだです。

【前村】　8は私が担当しています。ちょっとすいません。

【本田】　そうですか、もう昨年のものは全部出たという認識でいいですか。

【山崎】　いや、8、9、10あたりはまだ昨年だと思っています。

【本田】　着手中ではあるが、まだ公開に至っていないということですね、分かりました。でも、今後については、もう全部業者が入るので。

【山崎】　逆に、順番が前後しますけど、近い回のほうが重要だと思いますので、12回とかが出ちゃうと思います。

【本田】　ありがとうございます。

【前村】　ありがとうございます。飯田さん、お待たせしました、よろしくお願いします。

【飯田】　ありがとうございます。まず、作業状況ですけれども、取りあえず来週の報告会の準備を進めておりまして、御挨拶は当然総務省からさせていただきますが、ちょっとまだバイネームで決まっていないので至急決めたいと思っています。

それから、テーマセッションなんですけれども、時間がある程度限られているので、ステークホルダーコミュニティー、幾つ招待するかというのは、まだ、人数が限られているんですけれども、ユースについては、総務省でやっている、キャパシティビルディングじゃなくて、若者向けのインターネットの問題意識の醸成プログラムみたいなもので、高校生ICT Conferenceというのを毎年やっているようでして、そこに参加をして、討論会に参加してくれた高校2年生の方に参加してもらうということで、指導の先生と今連絡を取っています。

それであとはアカデミービジネスと、それからテック、シビルということで、お声がけしていて、そのお返事を待っているところ、一部御紹介いただいりしたのでお声がけをしているんですけど、まだちょっとこれもお名前を御報告できる状態ではないので、固まり次第、皆さんにメールとかで共有をさせていただこうと思っています。

ということでちょっとテーマ別のセッションは、取りあえず高校生にも参加してもらって、テーマはDFFT／グローバルデータガバナンスということですけども、あまり内輪だけの話をするよりは、あまりふだん聞いたことない、DFFTなんて聞いたことないという方でも聞きやすいような議論のほうがいいのかなと思っていますので、高校生も交えて、インターネットガバナンスとDFFTの関係というか、基本的に安全で、オープンで、信頼できるネット空間で、データがなるべく自由に流通し、活用できるような環境を目指すというためにいろんなことがなされていると思いますので、それをいろんな方の視点で御紹介いただくという感じの議論を考えています。

それから本筋というか、より長期的なIGF2023に向けた取組としては、省内のほうはなかなかあれなんですが、取りあえず内容、サブスタンスに関わりのある部局が幾つかあって、総務省の部局も全てが関わっているわけではないので、まず、サブスタンスに関わりの深い部局との連携をこれはデータ通信課も含めてですけれども、ネットワーク化して、2023年に特に重点的にやっていくテーマをどういうふうに考えていくかと。

それは結局、勝手に総務省はもちろんですけど、その日本として勝手に決められるものではないので、MAGとかいろんなところを通じて、いかにそういう方向性を打ち出していくかということを相談し始めようというところですので、これが動き出しましたらまた皆さんと共有しつつ、それを基に省内の体制や省外を含めた全体的な体制づくりをだんだん進めていきたいと思っています。

去年話をしたときには、省内でもちょっと早過ぎるんじゃないかという感じもあったんですが、だんだんと時間が近づいてきますし、あとちょっと余談になりますけども、会場もまだ決まっていません。候補はありますが決まっていません。それで今年の中旬以降に国連の視察団が来て、会場を見て決めるという段取りになる予定です。

ということでちょっと散文ですけども、取りあえず来週のイベントをしっかりみんなでやっていければと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

【前村】　飯田さん、ありがとうございました。質問や御意見などありますでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】　いろいろアップデートがあって、ありがとうございます。１つ気になるのは、その次回の報告会のところでDFFTとか、もしくはこの前クッキー規制のことあたりで、いろいろ総務省の中でも進捗していることがあると思うんですけれども、そういったことについても、どちらかというとまずその最初、政府としてのその投げかけがあって、そこに対して各それぞれの意見発表みたいなものがある、そんなイメージでしょうか。ちょっともう少し下、先ほど山崎さん、下のところを見せていただけますか。先ほどもう少し、そこですね、すいません、セッションのところです。

【飯田】　今回はDFFTということではあるんですが、さっきお話ししたとおりどっちかというと入門編みたいな感じで、どういう考え方かということを念頭に話をしたいと思っていまして、ちょっともちろんそれと関わりがあるはずではありますけど、今回の規制の議論とかというのは若干高校生を交えて話すには複雑過ぎるだろうと。あと各お立場を基に話すには生々し過ぎるだろうということで、そこには多分踏み込まないと思います。恐らく形式的にはDFFTというものはどういう考え方で、どんな経緯で、今までどんな議論をしてきたかということを御紹介しつつ、インターネットガバナンスで取り組まれているいろんなことから見たときにそれがどういう関わりがあるか、あるいはそれをもってどういうことを進めていけばいいと思われるかということをそれぞれに御議論いただいて、聞いている方にそのDFFTというのがどういう考え方かということがぼんやりと吸収していただければいいのかなと思っています。

【本田】　なるほど、あんまりその例の電気通信事業のほうについては、深くは入り込まないけれども、そういう概念とか、日本政府として国際社会に対しても訴えているそのDFFTの概念については政府側からの説明もあると、そんな感じですね。

【飯田】　そんな感じで考えています。

【本田】　分かりました。私も別にあまりその宣伝セッションになってもあれかなと思うんですが、ただ皆さん、まだ触れていない概念という部分のところも多いですし、私もちょっとよく分かっていない部分がまだまだあるので、確かにそういったところである程度アドバルーンではないんですけれども、説明を加えていただく、そういう機会はいいなと思います。

以上です。

【飯田】　ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【前村】　そのほかありますか。ないようでしたら、それでは、次のところに参りたいと思います。IGF MAG報告ということで河内さん、よろしくお願いします。

【河内】　すいません、聞こえますでしょうか。

【前村】　聞こえております。

【河内】　すいません、この間のこの会合の日の夜中に、オリエンテーションセッションがありまして、参加しました。

新しくMAGのメンバーになった人と、それから、元からのメンバーの方と、もうやめられている方とかもいらっしゃって、みんな一言ずつ自己紹介をした後に、MAGについての紹介をしてくれたということで、一番重要というか、ここで御紹介したいのは今年のスケジュール案というのが提示されまして、ちょっと画面共有させていただいてもよろしいでしょうか。

これで見えていますか、これで一応１月４日付になっていますけども、今時点でのスケジュール案になっています。左の上から順番になっていまして、今、この上から３つ目の四角の中にIGF Community Call for Thematic Inputsと書いてありますけど、後で御説明しますが、今、御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、次回のIGFのテーマとかについての意見を募集しているところで、それが２月の１４日が締切りになっています。

その後、１回目のOpen Consultations and MAG Meetingです。それが2月の23から25日の予定に今はなっています。この予定についてはコロナの影響もあるので、もうちょっと遅くしたほうがいいんじゃないかという意見と、いや、どうせハイブリッドなんだから、さっさとやっちゃったほうがいいんじゃないかとかいろんな意見がそこでは出ていました。ですから、今のところこの予定が変更になるとかいう連絡は来ていないです。

それから、途中飛ばして2回目のその会議が6月、右から2番目の列のここです。右から2番目の列の6月22日から24日が2回目のMAG Meetingの予定。それから、いろいろあって、その次が、3回目は9月の21から23で、実際の日付はまだ決まっていないということで、そういう予定に今のところなっています。

それから、もう一つ共有したいのが、これが今出ているCall for Thematic Inputsで、一応2月の14日まで意見募集ということで、多分ホームページから誰でも見えるようになっているんじゃないかと思いますけども、一応今意見募集中になっています。誰でも提出できるようです。

全然別ですけども、別途ICCだったかな、ちゃんとメンバーにこの案内が行っているメールが来ていましたのでという御紹介です。

以上です。

【前村】　テーマのインプットということは、IGF2022のサブテーマというか、テーマが５つとか、５本柱、６本柱ぐらい立つというあれですかね。

【河内】　この下のを見ていただくと、３つまで選ぶと書いてありますね。2022年のIGFでプライオタイズすべきテーマを３つ選べとなっていますね。

【前村】　プラスインプロバイズじゃないけど、新しいものをつくってもいいということですね。

【河内】　そうですね、アディショナルインプットと書けばいいんですかね、よく分からないんですけど。ということで。

【前村】　分かりました。ありがとうございます。御質問やコメントなどありますでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】　すいません。これまでのやり方はちょっとよく分かっていないので、ずぼらな質問かもしれないんですが、いわゆるそのIGFに今まで日本から応募したというのは、各いわゆる業界の方とかが、詳しい方が個人レベルもしくは企業、ビジネスからのものとかでそれぞれに応募されていて、何かまとまって日本から何か支援するとか、そういうのはあんまりやっていなかったという感じですか。日本からというのはちょっと言い方が抽象的ですが、ややまとまってグループつくってやろうとか、そういう組織的なものではなかったということですか。

【河内】　それは私がお答えしたらいいですか。

【本田】　そうですね、逆にどうですかというのはいわゆる日本としてある程度、多分自由にやりたい人が今後手を挙げることはできると思うんですけど、例えばせっかく2023というところに向けて頑張っているわけですから、ある程度まとまったもの、そしてプロポーザルステップもいいのかなという、もちろん誰が入れてもいいんでしょうけど。

【河内】　それってこのテーマに関する意見を出すということについてですか、ではなくて。

【本田】　そうですね、それもそうですし、テーマの意見もそうなんですけど、それ自体もそうですし、その応募に向けての準備というか、そういうのはどうなんでしょうかという意見です。今までやっているとおりでいいということであれば、それはそれでいいかと思うんですけど。というのは要するにそういうふうな実際の運営のノウハウというか、細かいところもある程度知っておく機会になるのかなと思ったので、どうなんでしょうかと思いました。

【河内】　すいません、ちょっと御質問の意味がちゃんと理解できていないんですけれども、MAGメンバーとして何かグループで……。

【本田】　そういう意味ではないです。MAGの立場としてというよりも、日本勢と言ったらいいんですけど、いわゆる日本人、日本からの応募というのが各発表者というか、発案者のスタンドアローンのがあったのかもしれないんですけれども、ある程度いわゆる日本の勢力というか、グループとしてまとまって、そういうテーマの提案なり応募の提案なりというところにもまとまってやっていくほうが、よりいろんな人が参加できていいんじゃないでしょうかという提案です。はっきり言うと英語がある程度できて、できる人はある程度やるかもしれないけど、いろいろアイデアはあるんだけど、ちょっとそこまでという人もいると思いますので、そういうのはどうでしょうかという。

【山崎】　山崎ですけれども、河内さんにその質問をぶつけるのは酷と思いますので、私がちょっ

と知る限り、過去どうなっているかはというか、特に日本でそういうふうにやっていたということは私が知る限りないんですが、もしございましたら加藤さんとか上村さんとか、以前からずっと関わっていらっしゃる方、その辺お伝えいただければなと思うんですけれども、日本として何かまとめてということはなかったと思います。

河内さんに御質問したいのは、先ほどICCの例が出ましたけれども、それはメンバーにこういうのがありますと紹介するだけですか。ICCでまとめてIGFに提出するなんていうことは特にやってはないんですか。

【河内】　すいません、ちょっと待ってください、メールを確認します。メールというか、ちょっとちゃんと読んでなくて。

【山崎】　ICCを例に出すのはあまり適切じゃないかもしれないです。うちの国はまとめて出しますなんていうことは、あんまりやらないんじゃないかと想像するんですけども、もし御存じでしたらというだけで、詳細に今言っていただくお時間はないでしょうから、もし思い当たるところがあれば、御回答いただければというぐらいです。

【河内】　そうですね、せっかくこのグループがあるのでこのグループで意見をまとめて出してもいいとは思いますけども、ちょっと今回のでも提出の方法が先ほど画面共有させていただいたように、ただ３つまで選んでチェックして送信する。もちろん備考みたいなところに好きなことは書けるとは思いますけども、なので、まとめてもうちょっとちゃんとした意見を出すという形ではあまりないかなという気はしますが、でも今回に限らず今後についても、せっかくこのグループだけじゃなくてほかにも何かグループが国内にあれば、そこと一緒でも構わないんですけども、何か意見を出していくというのは意味があることじゃないかなとは思いますが、そんなんで答えになっているでしょうか。

【山崎】　ありがとうございます。何か飯田さんの手が挙がっていらっしゃいますが。

【飯田】　今まで統一的に何かやってきたことはなかったのかもしれないんですけども、総務省では、少なくとも2019年以降はDFFTを念頭に、データガバナンスとかトラストとかというテーマを投票してきています。別に総務省からみんなで一斉にやってもいいのかもしれないけど、それをやっても別にあまり意味がないかもしれないので、一応総務省の担当ラインとして投票して、例えばこれが絞られてきたときに、今年のテーマはこの５個ですとか６個ですとなってきて、基本的にはコンプリヘンシブなものに、包括的なものになるのでどんなものであってもセッションがテーマにないから、このセッションはできないという現象は起きないとは思うんですけども、それでもやっぱり時間の配分とかそういうのが、優先度が高いところに割当てが多くなりますので、そういう意味でデータ・フリー・フロー・ウィズトラストなるものを対象にしたセッションをやろうとしたときに、入る余地がなくならないように一生懸命それっぽいテーマに投票してきたというのが、過去３年ぐらいのやり方です。

それ以前はDFFTじゃないものを対象に少しやっていたという感じだと思いますけども、そういう意味で今年みんなで申合せをして、これに投票しましょうとやるのももちろんありだと思いますし、マルチステークホルダーのあれからすると皆さんがそれぞれ思うところを多様性を尊重しながら自由に投票すると、それでもいいんだろうとは思っています。

ただ、できれば2023年に向けてという意味では、ある程度何を重視するかということがだんだん共

通認識になっていって、少なくとも23年には日本として、こういうのが大事だということを打ち出しながら、それをグローバルなMAGとかグローバルなIGFのコミュニティーと議論して、アジェンダセッティングしていくということを目指すことになると思いますから、そういう意味で日本のIGFコミュニティーとして、優先的にこの課題が大事だよねというものをある程度共通認識で持っていく、そのプロセスとして今回、何か議論した上で投票するというのは、ありかなと思って見ていたところです。

これは後になるとさっきお話ししたとおり、このテーマを基に、この投票結果を基に優先テーマが選ばれて、それを前提にセッションの応募がなされて、オープンフォーラムとかメインセッションとか、この幾つかのカテゴリーについて、プロポーザルを受けて選定に入りますので、そのときにテーマがなるべく自分たちの提案したいセッションに有利になるような構成を目指すということになってくるし、できれば今度、来年に向けて今年も日本のコミュニティーとしてセッションを提案して、主催していくということができたら、来年に向けてのいい予行演習になるんじゃないかなと思っているところです。

すいません、長くなりました。

【前村】　飯田さん、ありがとうございます。とってもリーズナブルだなと思いました。

基本的にはあんまりこういうふうに一般に対して質問してという感じにはしていなかったんじゃないですかね、今まで。何か初めて見たという感じさえしますが、上村さんが何か御存じかもしれない。上村さん、どうですか。

【上村】　すいません、まず最初におわびを。２回目はうっかり会議を忘れていて、スルーしちゃってごめんなさいだったんですけど、その余波で前回もちょっと予定に組み入れられず、すいませんでした、申し訳ありません。

初めてお目にかかる人もいるかもしれませんけど、大東文化大の上村です。前村さんの話を奪ってまでということではなかったんですけど、私もこんなプロセス今までなかったなと思っていました。メインテーマの、メインセッションのテーマを幾つかある中から選んでくださいみたいなの、なので新鮮な趣を思ったんですけど、そのJPというか、国内のコミュニティーとして何をするかという話はあまり積極的にしたことはなかったと思うんですけど、これは難しいよねという話はしたような気がします。それはどうなったかというと、例えばそのポジションペーパーとかステートメントを国内コミュニティーでまとめようとかというのはちょっとハードルが高そうだし、もしかしたらそういうものじゃないかもしれないというので、あんまり積極的には考えていなかったと思います。

それから、それとちょっと関連すると思うんですけど、コミュニティーとして、セッションを提案しようという話もあんまり積極的ではなかったと思います。やはり何をイシューにするかということからして重要なことになるので、そこについて、そのコミュニティーワイドの合意が得られるかとかというあたりも多分あって、そのJPとして、セッションを一緒につくりましょうという話は、これまでは積極的でなかったと思うんですが、ただそれもコンセンサスが得られればあってもいいことだと思いますし、それ以外のことは多分可能な限り積極的にしてよいと思うので、例えばこのイシューが大事だと思うから、ここをこのテーマに投票しましょうみたいな、ある程度のコーディネーションあってもいいのではないかと思って、先ほどの話を聞いておりました。

以上でございます。

【前村】　　上村さん、ありがとうございます。山崎さんはオフハンド。

【山崎】　　いや、これはニューハンドです。今までの話はグローバルIGFに日本として集約するかという話だったと思うんですけども、私が考えたのはグローバルでテーマ募集をしてというプロセスを日本側IGFでも、例えば今年であれば具体的にはIGF2022の事前会合に向けてやるべきかどうかというのも議論したほうがいいと思いまして、ちょっとこの枠は河内さんの枠ですので、それを今やろうというわけではないんですけども、報告会の次に2022年度のスケジュールについてというところがありますので、そこで、皆さんに議論いただければなと思っておりますという頭出しでした。

以上です。

【前村】　　ありがとうございました。大体、私は上村さんと同じように思っていました。基本的には日本で全マルチステークホルダー・オールジャパンの正はこれだというものをつくるというのがあまり重要ではないと、たまに重要になることあるんです。でも、いつもそういうふうにやるべきであるとは思わないので、好きな、せっかくああやって募集があるんだからそれに応えてやるというのはいいことかなと思いますし、下のほうの自由回答のところに関してはいろいろと物を言うというのか、言う機会があると、なので、それに対して意見を表明するというのはいいことだと思います。

それで、ここは今IGFということを話していますが、別のところではICANN報告会なんていうのもJPNICは主催して、そこにはいろんなステークホルダーでICANNに参加している人たちが出てきているんですけど、そうすると情報交換をして、それってこういうことだよねという話をしたり、日本ではこういうふうな意見があったみたいなことのインプットというのはそこで生まれるんですよね。

そうすると、そういうようなことを例えばICANNに行ったときに言えるとか、そういうふうな効果がありますので、そうすると恐らくはこの活発化チームぐらいのところがIGF活動を最もシンパシーを持ってやっているところだとすると、ここでそうやって話したことがIGFや河内さんがMAGでそういうふうなことを言及なさったりできるとか、そういうような方向にも生きていくと思うので、そういうふうにこの場を使えたらいいんじゃないのかな、あるいはメーリングリストとか使えたらいいんじゃないのかなと思いました。ということでございます。

そのほか河内さんのセッション、御質問や御意見などありますか。ないようでしたら、次に参りましょうかね。河内さん、どうもありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いします。

【河内】　　ありがとうございます。

【前村】　　報告会に向けてということで、いきましょうかね。IGF2021の報告に関して、これはコーディネーションは立石さんなんですけど、立石さんは今日ちょっとお見えになっていないようですが、JAIPA、木村さんのお名前が見えるんですが、木村さんが実は携わっていらっしゃるとか、そういうことあるんですかね、聞いてみよう。そういうことではなさそうですか、木村さん、聞こえますか、もししゃべっていらっしゃるんだったらミュートになっているようですが。ちょっと御反応がないようですので飛ばすということかなと。

その次のDFFTのテーマセッションなんですけども、先ほど飯田さんの御報告からも、幾つかそれに触れられていますけれども、ここで何か言うことにしていたこととか、あったりしますか。飯田さん。

【飯田】　　すいません。今、あれだったでしょうか。

【前村】　　報告会に向けたプログラムの準備状況というのを先ほど御報告で言い切ってしまっているんだったら、もうそうですということかもしれない。

【飯田】　　そうですね、基本的にそういう状況です。あとちょっとテックとシビルの方を問合せ中ではありますが、場合によってはどちらか１名でもしようがないかなと思っているんですけど、ユースを含めて３名ないし４名のパネリストの方で議論をいただいて、あともしできれば、オンラインで参加している方からも質問を受けたりできたらいいかなと思っているところです。

ほかの業務との関係で、もしかすると６時ちょっと前に終わる必要があるかもしれなくて、１時間フルに取れないかもしれないというのがあったりするので、ちょっとその辺も見ながら、御相談したいと思ってはいます。

取りあえず今日のところは以上です。

【前村】　　了解です。分かりました。

それとあとビジネスセッションというのか、組織化のセッションなんですけども、こちらはやはりパネリストを指名してというよりも、その場にいる皆さんで御意見を言っていただくということにしようかなということを思っていまして、後ほど組織化をどうしていくかということに関しては、今日もちょっと書き物を起こして来ていますので、すいません、事前にお配りしていないんですが、書き物を起こしていますので、そちらで議論しながら前回、今回の議論を踏まえて、当日４番の組織化セッションで議論ができればいいかなと思っております。今日から当日までに向けて、若干助走をつけたいかなとも思っていますが、どうなるかちょっと分からないという感じですかね。

あとそれ以外に報告会で確認しておいたほうがいいことありますかね。山崎さん、スタッフ募集みたいなところというのはどんな感じとかって共有したほうがよくないですか。

【山崎】　　先週メーリングリストにお送りしたんですけれども、そうですね、主に当日、ロジスティクスをお手伝いいただける方を募集しているんですが、特に今のところ反応はないという状況です。本田さんから事前にひょっとしたらという感じでお伺いしていたような気もいたしますが。

【本田】　　私はお手伝いできることは何でもやるつもりですけど、どうでしょう、前回のところで、前回の反省でちょっと出演される方は一旦は打合せしておいたほうがいいよねみたいな話でしたですよね。何か資料とかのまとめもなかなかできなかったりしたので、一旦時間を区切ってもらって、そこのときに全体打合せというか、流れの確認とかやったほうがいいですよねみたいな話で、そうしてもらったほうがもうそのときにがっちゃんで、そのときにデータとかを全部集めてもらってできるので、あまり個別にメール連絡しても追い切れない場合もあり得るので、もういついつに来てくださいということで、したらいいですみたいな話でしたっけ、と思っています。私の中のイメージはそういうところなので、その本番前の１回の打合せ、１回もしくは２回の打合せと、その当日のオペレーションというところをお手伝いするつもりでいますが、ほかに何かあれば適宜お手伝いできることがあれば教えてください。

【山崎】　　そこは適宜御連絡しながら進めるようにしたいと思いますが、多分発表者が決まるのはぎりぎりになるので、発表者の方々と打合せする機会が十分取れるどうかはちょっと現時点では分からないですけども、極力そういう方向に持っていけたらと思っています。

【河内】　　すいません、河内です。

【前村】　　大丈夫です。

【河内】　　すいません、もしできることがあれば、私は中身的なところは分からないかもしれないんですけども、Zoomの操作とか何かそういうことだったらできると思うんで、もし何かあればおっしゃっていただければと思います。

【前村】　　山崎さん……。

【山崎】　　何かお願いさせていただくかもしれませんので、よろしくお願いします。

【河内】　　その時間をフルに開けとけば大丈夫ですか。事前にちょっと打合せがあるのか分からないんですけど。

【山崎】　　事前に打合せはやる可能性はあります。そのときは事前に御連絡いたします。

【河内】　　分かりました。

【本田】　　ありがとうございます。要するにその出演者との打合せもいいと思いますし、あとボランティアの中というか、うちだけでの話でも一旦してから、ここで延々と何か話さなくてもいいので、それでいいんじゃないかと思いますので、山崎さんのハンドリングをお待ちしています。

【前村】　　ありがとうございます。そのほか報告会に関していかがでしょうか。IGF2021報告のところは立石さんから御連絡いただいた範囲では、そこに書いてあるとおりのことでシビルソサエティにも打診を予定しているということで、この辺が首尾よくついていけばいいんじゃないのかなと思っています。

そのほかありますか。なければ次のところ行きましょうかね。2022事前会合に向けて準備をどうするかに関しては、これは山崎さんに渡せばいいですか。

【山崎】　　ちょっと今日参加されている方は、いつもより多少少なめかなというところなんですけども、そろそろ今年のIGF事前会合に向けて、準備を進めなきゃいけないかなと思っておりまして、先ほどちょっと頭出しさせていただきましたけども、一つ大きな点はこのテーマ募集をやるかどうかです。これまではやっていなくてというか、去年初めてセッションを公募してということをやったわけですけども、今年はさらにテーマを募集するかということを皆さんで議論いただいて、やるなら早めに準備しないと、ちょっとこれは非常に粗いスケジュールですけれども、去年と同じ10月後半にIGF事前会合をやるとすると、もう春には早々にやらないと間に合わないんじゃないかなと思っておりますということで集約して、IGFを本件に出すというのとは別に、日本のIGFとして事前会合をやる際に、そのセッションのテーマの募集を先にやるかどうかというのをちょっと皆さんで議論いただければなと思うんですけども、いかがでしょうか。

【前村】　　山崎さん、ありがとうございます。テーマ募集だからさっき見たグローバルIGFがやっているような形で募集をするかということですよね。

【山崎】　　同様の形で、国内でもやるかどうかということです。

【前村】　　そうですね、何か言いかけた、皆さんいかがでしょうかと言ってみたほうがいいですね、皆さんいかがでしょうか、どうお考えでしょうか。つまり前回の事前会合ではテーマというのか、セッションを募集するというところから始めましたよねということですよね。ここで書いてあるのは12行目の６月中旬、セッション募集開始というところから始めていると。その前のセッションを募集し

て審査するというスキームをつくった後にこれをやっているということで、セッション募集開始っていつでしたっけね。

【山崎】　　去年も８月ぐらい。

【前村】　　そんな感じですよね、ちょっとだから早めにもちろん進めるということかもしれないですね。そのセッション募集に当たって、テーマを募集するというのであれば、それよりもうちょっと前から手を動かさなきゃいけないよねと言っているんだよね。

本田さんの手が挙がっています。

【本田】　　私の直感的な感触では２つあって、一つはそんなにテーマというのもすごい広がっているわけではないので、ドメスティックな中では、まずこういうのをやりたいという具体的なセッションアイデアのところから始めてもいいのではという気もするんですが、片や、そもそもまだそこまでこの前回のセッション募集もあまり時間が取れなかったような気がしているので、まず、その先行的にこういうテーマいかがでしょうかみたいなアイデア出しの部分で、それも兼ねてテーマ募集をかけて、その中で、ある程度こういうこと、こういうテーマのニーズがあるんだと、そういうものを収斂した中で、実際にセッション募集を始めていくと。そのほうがより丁寧さがあるというか、こちらというか、まとめるほうもより猶予を持った中で審査に臨んでいけるのではないかなという気はします。

ただ、ちょっとこのスケジュール感で言うと、セッションから約三、四週間、セッション募集から三、四週間、５週間ぐらい取った中での審査なので、ちょっとそこがぎりぎりにならないかなという感じはしますけれども、いずれにしても３月からテーマ募集というのはすごい合理的に思える部分もあると思いますという意見です。

【前村】　　上村さん、お願いします。

【上村】　　まず質問なんですけど、ここで言うテーマってどんなイメージなんでしょうか。

【本田】　　どうなんでしょうかね。私が思うのは、いわゆるカテゴリーというのではなくて、いわゆるプログラムで言うところのタイトルとアブストラクトのリード、ちょっとこうこんな感じというふわっとしたところじゃないかなと僕は思ったんです。つくり込みをしていなくてもテーマ募集ができる。

【上村】　　総合テーマみたいな感じで例えばIGF、グローバルのやつだったらセキュリティーとかダイバーシティーとかと言っているようなレベルのテーマじゃないということですかね。

【本田】　　そうなんです、それを言いたくて。カテゴリーということであればもう初めから別にある程度こういうグローバルIGFのものであるよねというのはあったので、その単なるカテゴリーのところだったら別にあえてやらなくてもいいのかななんていうふうには思ってしまったということを最初に言ったんです。

【上村】　　そういうことであれば私も同意見だったので、だったら同じタイミングでセッションも募集しちゃえばいいんじゃないのって、ちょっと大胆に思って……。

【本田】　　確かにそれもそうですよね。

【山崎】　　山崎ですけど、私が思っていたのはちょっと違って、グローバルのIGFにもっと近いものということだったんです。もちろん日本の状況は違いますので、日本独自のカテゴリーを提案して

いただくことは必要だと思うんですけども、基本的にはちょっとグローバルIGFをそのまま和訳して並べるのが適切かというのはあるんですが、それに近い形でまずは始めて、いや、そこにはないからこれをという提案が出てくるというのを期待していたというのが私の考えですけども。

【上村】　　そうすると例えばちょっと例が古くさくて恐縮ですけど、今回のテーマがダイバーシティーとセキュリティーですとなったら、それにはまらないセッションを受け付けないということにするわけですかね。

【山崎】　　いやいや、そんなことはなくて、ですから、テーマ募集のときには出てこなかったけど、やっぱりセッションでやりたいテーマはあるかもしれないので、それを機械的に落とすというところまで厳密にするつもりはなくて、そういうのが出てきたらそれは共有すると。あんまりがちがちにするつもりはありません。

【上村】　　いや、きっとそうだろうと思ったんですけど、だとすると何か今回のテーマはこれですという総合テーマみたいなものであればいいと思うんですけど、インターネットユナイテッドだとか何かありましたように、だけど、それ以外のテーマをあえて決める必要がどれぐらいあるのかというのはちょっとよく分からなくて、しかも前回はセッション公募に応えてくれる人がどれぐらいいるだろうかということを心配していたことを考えると、何かテーマにのらないと外され、セレクションから漏れてしまうと思われてしまうようなテーマ設定はしないほうがいいかなと思いました。

以上です。

何か前村さんが２分ほど外しますとおっしゃっているので、どなたか話したら。

【本田】　　私もちょっと同じことを思っていて、要するに間口を広げるためにまず募集という形、中身はあれとして、別として募集を始めるというのはいいと思うんですが、初めから何かこう絞っていく感じ、要するに全体の何かスローガンを決めようというか、何かそのテーマを決めようということでやると、確かにおっしゃるとおり何が出てくるか分からない状況の中で、テーマを決めて、逆にここで募集、応募をためらわせてしまう可能性もあるのではと思うので、やはり間口を広くしておいたほうが、現状ではやはりそこまで何かすごい日本のマーケットの中で、そこまで深く深化しているとは思えないのでと思います。なのでテーマ募集というところの何を募集するのかによりけりになってくる気もします。

【山崎】　　そうしますとテーマというものの定義が曖昧だから、ちょっとよく分からないということだと思いますので、そのテーマがどれぐらいできるのかというのはちゃんと提案しないと、結論が出しにくいということですよね。

【前村】　　前村ですけど、ちょっともしこのテーマがさっきのグローバルIGFのThematic Inputsと同じレベルのテーマだとすれば、グローバルIGFと日本のIGFで根本的に違う所与の状況というのはセッション数ですよ。セッション数はグローバルIGFでは200とかあるからテーマを絞って、こういうふうな話をできる場にしたいなと言っているので、それがここで事前会合みたいな形で、IGFのしつらいでやる場合は４、５セッションをどうするかということなので、したがって、絞り込まないほうがいいんじゃないのではないかという本田さんのおっしゃり方にはとても賛同するところなんです。

それで、それ以外の何かちょっと別の角度のテーマをつけようとか何とかというアイデアがあるということですか。

【山崎】　　私はそうは思っていなかったんですけども、今の皆さんの議論を聞いていると、別の角度のほうがより適切かもしれないとは思ってきていますが、ちょっとそこをちゃんと言語化して提案しないと決められないかなという気がしてきたと。

【前村】　　何かアウトリーチみたいなものでというのか、ほかのもう既にジョインしていらっしゃる方々以外の人たちにピッチをするために、こういうことをやったほうがいいよねというセンスはあるのかもしれないなとは思ったんです。

【山崎】　　去年と同じことを繰り返しているんだと、2023年にどうするかというか、その成長の道筋が見えにくいので、新たに導入してはいかがですかということで提案したんですけれども、確かに現実的にはそんなにたくさん提案はないかもしれません。ただ、間口を広げる手段の一つとして、何かしらということを思っていました。

【前村】　　了解です。テーマ募集したほうがいいという方がもしいらっしゃったら、ここで声を上げていただくといいかもしれないんですけど、本田さんの手は古い手ですか。

【本田】　　多分古い手ですけど、別の折衷案じゃないんですけど、要するにセッション募集第１次募集とか、時期はちょっと３月からだと早過ぎるかもしんないけれども、第１次募集、第２次募集みたいのをやっても別にそれだったら実質２倍延びるわけですけれど、手間は増えない形でより正確にその準備が段階を追って進められるのかなと。ちょっと前回やっぱりばたばたしたところもある気がするので、そういう意味では、スピード感も大事ですけど、その募集することとアウトリーチ、もしくはそういう勧誘というか、ちょっと名前、忘れてしまいましたけど、そういう活動と並行できるので。

【山崎】　　エンゲージメント。

【本田】　　エンゲージメント、そうでした、エンゲージメント。

【前村】　　片仮名でごまかすなとよく言われるんです。

【本田】　　いやいや、エンゲージメント、仲間づくりとかそういうことですよね。要は勧誘。そういう意味では早くやるのは、早く着手するのはアグリーですというのが私の意見です。

【前村】　　それはそうですよね。実積さんがおっしゃっていたように、そんな急に言われてもできるわけないじゃないかというのはそうかもしれないんですよね。

何で早めに声をかけて、じゃああと４か月あるんだったら準備できるかなとかという感じの、早めに声をかけるとかというのはいいのかもしれないなと思いました。それが具体的なセッションを提案するという、人まで含めて提案する、どうにかするというのじゃなくても、何かこういうことやったらどうですかとアイデアを募集するみたいなことでも、結局そのアイデア募集、アイデアというのは何かというとアイデアを募集しますと言って、募集したアイデアでセッションにつくり切れないものは、取りあえずみんなで眺めてみる、なんですけど、そうは言っても何か面白いこと考えている人がいるから、あの人とかにしゃべってもらったらいいんじゃないのかなというアイデアが持ち寄れるんだったらそれも意味があるのかもしれないなと思います。

【本田】　　そうですね、ちょっとその審査のことも話が絡んでしまうんですが、何か今まで前回は何か応募があったものを受けて、こちらで審査しましょうという感じで、コーディネーター一任とい

う感じで、結構そのアイデアを持っている人とのコーディネーションまで全部一貫でやってもらったわけですけど、今の前村さんのお話だといいアイデア持っている人いるけど、ちょっとネットワークがないんだよねとか、もしくは誰をどういうふうに呼んだらいいか分からないとか、もうちょっと議論をしないとまだ煮詰まっていないよねみたいなテーマもあるわけなので、そういうものも含めて取り込んでいくには、むしろ長い期間かけてその準備期間があって、ある程度つくり込めている人は直前でもいいけれど、まだそこまでアイデアレベルのものからだんだんつくっていって、つくっていってというのはコーディネーターだけじゃなくて、それぞれそれに対して審査側といいますか、こちらのコーディネーションももっと深く入れていった形でつくっていくと、そうすると伴走しながらいいものができるんじゃないかななんて、そういうアイデアを今持ちました。

【前村】　なるほど、ありがとうございます。今日はどこまで行けばいいですか、山崎さん。

【山崎】　こういった議論を喚起するのが目的だったので、十分達せられたと思いますので、それを基に今映しているそのスケジュールを書き換えて、ですから、テーマというよりもセッションなり提案を募集するというのを早い時期からやって、セッションの募集はなるべく長い期間取って、あとセッションが決まってからフォローする期間を十分取るという３点が必要かなということだと思いますので、それでちょっとスケジュール書き換えてみたいと思います。

【前村】　書き留めておきましょう。ありがとうございました。

次行きましょうかねということで、本格体制どうするかなんですけど、今チャットウィンドウに資料を、Google Docsなのでコメント可にしてあります。それで前回の資料も置いておきましたので、今から僕のほうで投影していいですかね。そっちを投影してくれましたか、じゃあ投影します。

前回、組織化の議論というのを指定させていただきまして、上村さんがいらっしゃらなかったので、特に上村さんに伺ったほうがいいなんてということも思っているんですけども、これは１月１１日の議論メモということで、組織をつくるんだったらどういうふうな感じにするんですかねというのを形態としては任意団体ですよねと。法人にするというのはそういう必要があるときですよねと。設立発起人だとすれば、どんな団体なんですかねということや会員ってどういうふうな団体なんですかねとか、活発化チームやジャパンIGFとの関係を何か決めていかなきゃいけないですよねとか、活動の規模ってどんな感じですかねとか、そういうふうなことを一通り議論をして、俎上に上げていろんな御意見をいただいて、そんなところなんじゃないのかなと立石さんが言われ、その上でいろいろなことを考えていく必要があるよねということでありました。

前回の議論を基に、もう少し決め押しというのか、こういうシナリオになるんじゃないのかというのを書いてみたのが今回です。ちょっとそこに書きましたけども、具体的なイメージを俎上に上げることで問題点のあぶり出しの議論を進めていければいいなというのが、今日ちょっとやってみたいことだったということです。

今、活発化チームという形で、昨年の報告会を起点にそこからやり始めて、手弁当でやっているわけですよね。それを一段進めるために組織化をするべきなのではないかと。組織化をするというのは、組織をつくってそこにお金を拠出して、活動の規模を大きくしていくということを考えているということなんですけども、そうするとその組織をつくる、設立発起人を募ってという話からしていくんですけども、それをするにしても組織の目的というのが非常に明確に決まっている必要があるなと思いましたので、書いてみました。

これは活発化チームのチャーターと割と似ているエクササイズをやったということなんですけど、組織の目的は４点ぐらい書くのかなと。IGF活動の活発化ですよと、これは活発化チームがやろうとしていることで、啓発、アウトリーチもそうですよねという話です。目的というところに並べたほうがいいこととしては、具体的に何かやるんですか、活動の具体みたいなものがあればそれは並べたほうがいいな。そうすれば年次会合であり、報告会であり、事前会合。３つ会合をやるんですということじゃないと思うんですけども、４ポツ目にNRIとしての認知とその維持を行うという言い方をしていますけども、NRIとして認知されるためには、年次会合というのか、年に１回グローバルIGFのフォーマットにかなった形で会合をやるというのがほぼほぼ条件になっていますので、そういったことをきっちりやるということなんだろうなと思います。

もう一つ、こういう組織をつくる、何でつくるのかという目的というか理由みたいな言い方のほうが近いのかもしれないんですけども、これらの活動を進める上で各ステークホルダーからの中立を保つ機構の維持だという言い方をしてみました。活動している仲間の中のどこか一つが事務局を担ぎ出してくるということは、今JPNICが半ばそういうことをやっているんですけども、それだとJPNICが曲げようとしたら曲がっていくじゃないかということで、自分たちはやろうとはしていないけども、それはただロジカルには正しいなというふうにも思うんです。

であれば、こういう団体をつくるときに、きっちり中立になるような形で書き物を書いて、それを守るということを担保していかなきゃいけないんだろうなと思うとすると、こういったことを目的に書いておくということは重要なのかなと思っています。

次に、こういうものをやるためには設立発起人というものが必要だと。それが一般的な任意団体、協議会組織みたいなものをつくる場合の常套手段でありますねと。じゃあ設立発起人って誰なんですかねということで、設立発起人ってどういうものかというと、発足する組織の発足を望み、何かちょっと日本語としてこなれていない感じもしますけど、呼びかけを行う者というのが設立発起人だと思うんです。

こういう組織をつくったほうがいいよと思って、みんなやろうよと言ってくれるという人だと思うんですけど、だからこそ組織の目的というのが割とクリアに書き出されていないと、各設立発起人組織における決裁も通っていかないという感じだと思います。

それが誰なのかということで一旦書き出してみたのは、今、活発化チーム会合にレギュラーに出てきているインターネット関連の団体というと、JAIPAさんでありJPNICでありということなんですけど、次にCFIECを書いたのは、河内さんがレギュラーだからなと思いながら書いたんですが、それはちょっと河内さんに何か御相談をしてここに書き出したわけではなく、ぜひとも今日御意見をいただきたいなと。

こういうところは一番分かりやすいんですけども、恐らくはこの人が発起人だからねとぴんと来るような団体というのがあるんじゃないのかなと思うんです。そこに書いたのはIAjapanさんと書きましたが、活発化チームを最初始めたときにIAjapanさんにもお声がけをして、ぜひとも一緒にやりましょうよと言いながらちょっと何かそれがきっちり整わなくて今に至っているというところがありまして、そのほかここに書いてみて消したのとしては、もう少しステークホルダーのばらつきがあったほうがいいなということを思いながら、経団連と書いてみたりテレサ協と書いてみたりしたんですけども、その辺書いてしまうとそれはそれで陰でうわさしているような感じになってしまうという気がいたし

まして、十分口でうわさしているわけなんですけども、ここにも皆さんの御意見いただけたらなと思います。

そして設立発起人という発起してこれをやると、やりたいと言っているんだから、だったらお金は出そうねということがセットになっていくのかなという気がしています。これは多分にトレードオフなのかなと思っています。

次に、設立発起人が設立に同意をして、会が成り立った次にやるのは会員集めだろうと思います。会員というのは何かというと、組織の目的に賛同して、会費の拠出によって活動を支える団体や企業ということだろうなと思っています。「働きかけリスト」というのを最初のうちにがっとつくってみたものがあるんですけども、そういった対象が大体頭の中に想像されているのかなと思うんですけども、恐らくは設立発起人の方は、自分のステークホルダーセグメントに対する働きかけを主導するというのがきれいなのかなと思います。

ちょっと設立発起人のところで各ステークホルダーセグメントそろい踏みということを書きましたけども、ちょっと議論を戻しちゃうようで恐縮なんですけども、組織の目的として、IGF活動を進める上で、各ステークホルダーからの中立を保つということは、各ステークホルダーに満遍なくということでもありまして、だとすると、設立発起人もステークホルダーからちゃんと出てくるのがやっぱり好ましいですし、それをもって会員の各ところにも、発起人からのステークホルダーセグメントに働きかけをするというのがきれいになるのかなということを書きながら思いました。

それで会員ですけども、会員総会によって理事を選出すると書きましたが、恐らくは設立発起人で設立して会員を募って、普通は理事会をつくるでしょうねと思ったからです。理事会と書きました。理事会というのが総じてそうなのは、総会から委ねられて事務局の組織運営を監督するというものが理事会です。各ステークホルダーセグメントから１人という感じで、あんまり大きくしないほうが多分いいだろうなと思います。

ここちょっと言葉で書かなかったんですけども、この理事会をあんまり大きいものにしようというのがイメージにありません。それはなぜかというと５番でちょっと変な言葉、お耳になじみがない方いらっしゃるかもしれないんですけども、コーカスと書きましたが、これはICANNとかIGFとかだと、あるいはCFIECでもコーカスという言葉を使いますが、ちゃんと関与して検討する一団というのが大体コーカスというものの意味です。

それで、現在の活発化チームというのは手弁当でこうやって集まって今メーリングリストで100人、101人いて、こうやって３週１、２週１の会合をやると、10人というのは少ないパターンで30人ぐらい入ったりもするわけですよね。恐らくはここが活動のメインになるところだし、あと最初に設計したようにここがオープンでありボトムアップであるということは、恐らくIGF活動をする上では重要なんだろうなと思われます。

そうすると、コーカスという人と理事会なり会員総会なり、新しくつくる組織という間の何か関係性を定義する必要があるんだろうなと思っていまして、そうするとこれがどういう形でやられるのかというのは、ちょっとぱっと書き出さなかったなという気がしていますね。

幾つか私が関与したことがある団体だと、APNICという会社というか、リージョナルインターネットレジストリで、オーストラリア法人というのがあるんですけども、あれは例えばAPNICエグゼクティブ

カウンシルというものとかAPNICコミュニティーというものをSpecial Committeeという、何か会社に対して特別委員会という形で定義をして、少し書き物をしてやっているんです。だからAPNICの会社というのは、直接はAPNICのコミュニティーとは連携していないというか、リンクしていないというのか、コミュニティーが会社の中にあるような仕立てになっていないという感じなんですかね。

なんですけども、何らか定義をしないと、活発化チームの活動というのとそれの母体になるところとの関係性があやふやになるのかなということで、ここもちょっと注意する必要がありますということです。

活動と予算の規模感というのが、一番これがはっきりしないところで、どうやって決まれば決まるのかも分からないんですけど、とにかく幾つか松竹梅みたいなことでつくるんですかねと。今、IGTFがやった1,000万規模というのを一つ、かなり具体的なイメージがあるんですけども、そんなにお金集まらないのかもしれないし、もっと本格的にがんとやるためには集めて頑張らなきゃいけないのかもしれないし、その辺はちょっと具体的なモックアップでも予算をつくってみないと、少し何とも言えないのかなと思います。

事務局代行するとどれぐらいになるのかなというのが、前回話題として出てきているんですけども、こちらのほうはちょっと近いうちに、とある１社、一番インターネット業界から近い１社というのはあそこと分かるんじゃないのかなと思うんですけども、ちょっと相談してみようと思います。

私から今日この場の俎上に上げる材料としては、このとおりです。加藤さん、手がさっきから挙がっています。よろしくお願いします。

【加藤】　すいません、なるべく聞かせていただくだけにと思ったんですけれども、大変建設的というか、前向きな具体的な御提案を受け、すばらしいなと思ったんですけれども、ICANNの例とか、あとJPNICとかAPNICなんかの組織と比べた場合、法的な仕組みとかその辺を精査したほうがいいかなと思います。ここで書いていただいた例えばコーカスと、それから理事会ですけれども、ICANNの場合はカリフォルニアの非営利法人ですけど、会社法に基づく会社で、これアメリカ法だからそういうことになっているんですけれども、だから理事会と言いながらボードで、意思決定は最終的にそこで決まるというのがあったりすると思うんですけれども、意思決定はこの組織の場合、ちょっと上のほうにスクロールしていただくと、理事会の前に会員というのがありますけど、会員総会で、例えば一般社団法人とかは全員の総会で決まるのですね。これは株式会社だとそれは株主総会になるわけですけれども、そういうものと比較してこれはどういう組織にするかというのは、恐らく今おっしゃっているんだと一番近いのが一般社団法人なのかもしれないんですけれども、まず、法人化するかということも含めて、この辺の仕組みを決めたほうがいいのかなと。今書かれたとおり全員総会という意思決定機関はないんですよね、ICANNの場合。それと諮問委員会という同じようにGACなんかは諮問委員で、ここで言われている理事会の監督権限に近いようなことになるんですけど、実際はICANNの理事会は意思決定機関だと思うんです、法的にはね。

実際のプロセスはここで言うコーカスとかそういうふうにやっていると思うんですけれども、だから、ちょっとその辺の整理をしておかないと、みんなこの言葉だけにとらわれて、後で自分がもっと決定機関に関与していたとか、これはどこか密室で決まったとか、このグループがどうせやるんですからないとは思いますけれども、そこのところを明確にして言葉を選んでいったほうがいいのかなという気がしました。

すいません、第三者的なコメントで恐縮です。

【前村】　　とんでもないです。ありがとうございます。

ICANNは本当によく20年間で進化もしているし、よく考えられているなと思いますが、いずれにしても法的な関係を明確にするとか皆さんの期待感が外れないように、ちゃんと言葉遣い気をつける、とても重要なことだと思います。御指摘ありがとうございます。本田さん。

【本田】　　今の加藤さんのコメントも含めて考えてみたんですけど、２つ言いたいことがあって、一つはお金を出しているということと、お金出すという、ちょっと汚い言い方になりますが、出資しているもしくはその会員になるというか、呼びかけになるということと、IGFのここで言うコーカスということですか。活動そのものは切り分けて考えたほうがいいと思うんです。何かこう決めるときに、いや、うちのが口数多く出しているんだからとか、松竹梅で松を出しているんだからより通りやすいよねということは全然ないわけで、ないわけでというのはあってほしくないということです。

運営していくとこの入れ物として、社会的な入れ物として使うわけだし、いわゆるそのロビー団体でもないですし、業界団体でもないと思いますので、それはほかにあるわけで、もちろん予算を負担するということに対しての何らかのインセンティブがあったほうがいいとは思うんですが、それよりもむしろ実際のその活発化チーム、今の活発化チームも移行するだろうコーカスという部分に、やっぱり予算的な部分、経費的な部分も含めてよりやりやすくなるための入れ物ということなので、そこの部分の予算立てのところを年単位なのか、半期単位なのか知りませんが、決めていくというところだけで、別にそんなにメンバーは確かに必要ない、その理事会というんですかね、というかその人たちが言ったらあれですけども、対外的には代表をしますけれども、だからといってその人たちが日本のIGF活動を方向づけていくという意味でもないのかなと思っています。

なので、あともう一つは団体がその発起人となるということもそうなんですが、逆にインターネットプレーヤーとしての各個人、企業はもちろんプレーヤーなんですけれども、個人としてのやっぱりプレゼンスというのは、私、何度も言ってきていますけれども、それぞれのインターネットに接続して使うユーザーとしての個人、それがやっぱり見過ごされてはいけないなと思って、いわゆる団体だけがこうというのはちょっとどうなのかという気もします。

【前村】　　ちょっとこれはクラリファイング・クエスチョンなんですけど、恐らく各個人、団体ばっかり前に出て、各個人が見過ごされるべきではないという言葉は、割と理解はできるんですけども、ここではコーカスに入って活躍するということで、個人が見過ごしていないことになりますか、それとも組織の仕立として、会員のレベルで個人も何かできるようにしたほうがいいということでしょうか。そこは先ほど多く金出しているから多く口を出すようにするべきではないというのは、本当にそのとおりだなと思いながら聞いていたんです。

だから逆に言うと、会員の皆さんには、その場をきちんとつくるというところに魅力を感じてもらって、逆にそのコーカスのほうは基本的には個人による参画だという感じになっているというのが、形としてはいいんじゃないのかなと思ったんですけど。

【本田】　　そうですね、そうですね、要は議論したりいろいろ言い合ったりする、言い合うというのは語弊ありますけど、そういう部分の活動のエンジンのレベルは、あくまで個人としての参加で、何かそれぞれの団体が出てきて、いや、俺たちはこうじゃないかとかという、けんかというか椅子の

取り合いゲームにはならないほうがいいなと思う部分が一つと、そもそも加盟団体のところで、団体として出すというのはお金を出すよというところもそうなのかもしれないけれども、その組織そのものの運営を個人としてサポートしたい人、もしくは関与したいという人がいれば、それはそれで個人会員というのもありなのかもしれないし、別にそれプラスそのセクターとしての個人がいっぱい、要はインターネット市民の中の個人、個人という言い方がちょっとうまく言えませんが、要は企業としての利用者ではない、一般市民としての利用者のセクターの部分が入ってくるのであれば、私はちょっとよく分からないんですが、先ほどお名前が出た中でMyDataJapanというところもありましたけれども、市民社会としての市民団体とか消費者団体というものがそこに入ってくるのはプラスかなと思います。

という意味で法人というところについても、個人セクターは入るべきではないか。プラス個人としてより深く関与したいという人は、個人会員というのもありではないのかというところで思いました。コーカスと分割するという、分けて考えるというのはすごくプラスに思います。

【前村】　なるほど、ちょっと頭の中で個人を会員制度の中にどうやって入れていくかというのがぴんと来ていなくて、やっぱりコーカスでいいんじゃないのかなと思っているんですけども、今本田さんのお考えがそうであるということは分かりました。ありがとうございました。上村さん。

【上村】　本田さんがとてもマイルドにおっしゃったので、私はちょっと平易のない言い方をしようと思いますけど、個人会員で組織するべきじゃないですかというか、法人会員で組織することの意味というのはちょっと私にはよく分かりません。もちろんお金を出していただく方便として、法人会員になっていただくみたいなのはあると思うんですけど、ちょっと趣旨が分からないです。

ちらっとEuroDIGを見てみたら、会員は個人だけなんです。その中から理事会が選ばれているようです。企業はどこで関与するかというと、インスティテューショナルパートナーズとかローナーズという形で関与していますので、もちろんそこから理事になったりする人もいるのかもしれませんけど、基本的には個人の組織になっているようです。それでAPNICをモデルにしたという話がちらっと出ましたけど。

【前村】　モデルにはしていないです。似たようなノリがあったなと。

【上村】　ノリがあった。随分違うと思うんです。JPNICもそういう意味で同様だと思うんですけど、モデルにすべきではないと思うんです。なぜかというと、というか、APNICやJPNICは法人会員だけで組織していい組織だと思うんですよ。それはインターネットのIPアドレス資源の配分とか調整が目的で、そこには個人が個人の資格で入ることはないからです。もちろん名誉会員とかそういうのであるかもしれませんけど、基本的には通信事業者が、自分たちの共有の資源を効率的に分配するために組織するものなので、法人会員だけで当然いいと思うんです。

ただ、インターネットガバナンスってちょっとそうじゃないのではないかなと思うんですが、ただ、その中途半端にこの個人会員と法人会員を入れると、オーストラリアのあのauDAのように何かちょっともめたりすることもあるので、結構バランスの取り方が難しいですけど、ただ、そうすると多分JPNICもそうだと思いますけど、個人会員って規約、定款上はあったように拝見しましたけど、すごい何か名誉教授みたいなそういう感じでしか、名誉職のような形でしかなれないと思うので、何かそこに個人会員を結びつけるのはとても難しいと思うんですよ。しかもガバナンス上でイコールフッティングを維持するというのはとても大変だと思うので、何かどうしていいのかよく私にも答えはないん

ですけど、結構ここの選択は、その後の組織とか活動の成り立ち、成り行きを決めるので、しっかりとしたロジックというかリーズニングが必要かなと思います。

それで、コーカスの話ですけど、むしろこれコーカスと組織の関係を逆転させたほうがいいのではないかと思うんです。組織は言ってみたらそのNRIの会合を開催する事務局組織とか、何かそういう事務局的な組織だということはっきりさせて、決してその日本のインターネットコミュニティーを包括するような、包含するようなものじゃないということを強調したほうがいいような気がします。

そういうふうに事務局組織とかそういうお膳立てする組織であるとするならば、法人会員だけで構成されてもいいのかもしれないなと思うんですけど、その組織の中にコーカスがあって、そこで個人が活躍できるからそれでいいじゃないかというと、ディズニーランドで遊んでいる人が、オリエンタルランドの経営に参加しているかというと参加はしていないわけで、やっぱりそのしつらえられた場でプレーする人とその場をしつらえる人との間の見えない壁というのを意識しないでおくのはあんまりよくないなという気がして、ちょっとその辺も本田さんよりはもしかすると私はかなり強く違和感を感じたところかもしれません。

加藤さんが先ほどおっしゃったどういう法律的な法人のモデルを参考にするのかというのも当然重要だと思うんですけど、何かそこに行く前にどこから出発するのかという、そこについての割り切りかもしれませんけど、かなりはっきりした選択が必要ではないかと思いました。

以上です。

【前村】　上村さん、ありがとうございます。ちょっとEuroDIGに調べが足りていませんでしたね。ちょっとこの場でやおら引き始めるのはちょっと難しいんですけども、参考にしなきゃいけないなと思います。お説はとてもよく分かりました。そうだなと思います。そうだなあと思った上で、ドナーのモチベーション、どこにあるのかというのはすごく気になりますね。だからその辺のメカニズムというんですかね、その辺の設計が何にも増して重要なんだろうなと。

【上村】　そこはよく分かって、私もさっきEuroDIGを改めて見て、こんな形でお金を出している人は満足しているのかって不安になるぐらいだったので、そこはしようがない気もしますけど、だとすると、やっぱりそのコーカスと組織の関係を逆転させるんじゃないですか。組織はあくまで何か事を動かさなければならないときの実行部隊ですと割り切って、そうしたほうが、もし実行委員会組織だけでやるんだったら、そこに入っていない個人も何かのけものされている感が少なくなると思うんです。

【前村】　であれば例えばJANOGみたいなものを例に挙げるとすると、JANOGの本質はメンバーであり、メンバーから運営委員だったり、ミーティング実行委員だったりというのが出てくるんだけど、その本質であるミーティングは、それとは別のスポンサーからの拠出によってちゃんと賄えていると。だから、JANOGという場に宣伝活動を行うことによって、その協賛が正当化されていて、うまく回っているんです。なので、ああいう感じだったらしっくりくるんですかね、上村さん。

【上村】　私は意外にというか、全然JANOGのことを知らないので分からないんですけど、APNICとか、JPNICよりはそちらのほうが近いのではないかと思うんです。

【前村】　そうですね。

【本田】　すいません、ごめんなさい、上村さんの意見で半分その個人主体でというのは賛同でき

るんですが、今言ったようにちょっとスポンサーとかそういうふうな立場になってきちゃうと、それはそれでどうなのかなというところで、結局繰り返しになりますけれど、お金を出したから何かベネフィットを求めて会員になるというんだと、それはちょっと違うのかなという感じもします。

だといってお金を出してもらうことはすごいウエルカムというか、出してもらわないと、より継続的な活動にはなっていかないんですけど、個人が例えば5,000円ずつ出してとか、それぐらいは構わないと思うんですけど、それはそれとして個人のほうは別として、その企業が入ってくるというのはあくまでインターネットのテーマパークですよね。ディズニーランドは１社が持っているだけですけど、インターネットは言わば公園ということで言われているわけなので、その公園自体を利用している一プレーヤーとして、一種の企業責任を果たすというところに意義があると思うので、それで入ったからじゃあ何か有利があるかとか、議論に対して何か力を持てるか、パワーバランスが持てるかとか、そういうことでは全くないので、あくまでドネーションに近い形、言わば公園のベンチの名前を入れましたぐらいで、名前入れたからそれで宣伝なるかというとならないと思うんですけど、そういう問題ではないという、何か対価とか利益を目当てに入ってもらっても困るというか、それだったら別に手弁当のままやればいいじゃないかと、私はむしろ思っちゃいました。

【前村】　　ありがとうございます。一つは今本田さんがおっしゃったことでそうだなと思うのは、協賛してお金を出せばいいんだというのでは物足りないは物足りないですよね。その個人がこうやって、いずれにしてもIGFでワークショップを企画したり何なりするというのは個人ベースで、組織の仕事をしてその個人がやっているというのはあるんだけど、個人ベースでそこは動いているんですけども、ここではより企業に対してエンゲージしたいとは思っているんですよね。だから個人だけではなくて、企業もエンゲージしたいと思うから、それが何か会員みたいな感じでお金出してよって言って、お金を出していただくということ自体がそういう関与するという方向のモチベーションを生んでいるということなんじゃないのかなと。すると好ましいなと思ったんです。

ということをちょっと申し述べて、先ほど上村さんがおっしゃったように個人会員が本質だということは、それはそれとして非常に重要なポイントだと思っているんですという感じです。

堀田さんいらっしゃいました、手が挙がっています。

【堀田】　　堀田です。すいません、1時間20分ぐらい遅刻しまして、頭のほうのは全然聞いていないんですけど、今の10分、15分ぐらいの話を聞いていて思ったことを言わせてください。

ちょっと会員といった単語の定義がよく分かっていないんですけど、要は今サブスタンスの活動、議論そのものの活動というのと、組織を組織として運営するという活動、この２つのレイヤーは全く違うものだと思うんです。組織を運営する人たちは、お金を持ってきている人たちは組織を運営するところに口出さないと、多分そんな組織だったら金出さないよということになっちゃうので、だから組織を運営する側のチームには、スポンサーが入るべきなんだろうなと思います。

スポンサーというのは結局は多分２つ、そのお金を出すモチベーションというのはあると思っていて、そのサブスタンスの活動自体がすばらしい活動である。よってお金を出してでもそれをサポートしたいと思うことプラス団体もしくは企業として、自分たちがインターネットの中で生きていく上で、いろんな人の意見を聞くということでそこにサブスタンスとしてのインプットもするということなんだろうなと思います。

ただ、ポイントは日本の中で、そういうことを共感し自分の意見も聞きたい。だからお金を出そうという人がいっぱいいて、前回の話だと3,000万と言っていましたよね、3,000万の会費が集まり続けるのかというところが難しいなって思いました。

すいません、途中で入ってきて違う話をしていたら申し訳ないですが、とまずは感じました。

以上です。

【前村】　　ありがとうございます。そうなんですよね。だから、意義がどれぐらいで、EuroDIGみたいなところにドナーがほいほい金を出すのがどういう構造なのかなということなんかちょっと考えてみたい感じがしますよね。それで上村さんが、もちろんJANOGのことをあんまり御存じじゃないのはもうそのとおりで、あれは技術屋の集団ですから、なんですけど、JANOG、私は最初の１０年は少なくとも毎回出ていたわけなんですけども、ちゃんとそこに協賛してブース出して、お客さんと話をするということで十分あれはペイをするように認められたから、今やもうひっきりなしというのか、協賛で困っていない、JANOGのところは。それはその技術的な商材を技術屋さんに売るということでとてもそれの上でそういうコンサルテーションというのが重要だからなんですけど、ここに関してどういうスポンサーが集まるかというのを想像すると、やっぱりICT関係には変わりはないんでしょうけど、だとすると何かあれなんでしょうね、まだ、どういう人たちが集まるかという想像ができていないということなのかもしれないんですけど、協賛してくれる方に本当にその事務局的な、お膳立て的な組織として参画することのモチベーションの設計というのは何か難しいなとは思うんです。堀田さん。

【堀田】　　まさにそのとおりで、JANOGは、実はJPRSはスポンサーもやっているし、技術者も出していますと。あれは、うちの会社の考え方はあの活動はすばらしいと、日本の中で技術を広げる上ですばらしいと思っていて、かつ、うちの個人である技術者が活動することによって個人が育つ。結果的に会社が育つと思っているのでスポンサーやっているんです。

だから、前村さんおっしゃったようにそれと同じ構造、つまり出した個人も育つし、企業も育つという構造がIGFでできるのか、そういう構造になるのかどうかというのが、お金を出したいかどうかのポイントになると思います。

【前村】　　ありがとうございます。そうなんですよね。

そのほか皆さんいかがでしょうか。ちょっと時間のほうも少し気になり始めまして、ちょっと私、次のもあってということで、本日の議論としては、とても軸が、明確な軸が出てきたなという感じがしていまして、ちょっとこれはまた持ち帰らせていただいて、次はIGF報告会で、組織化議論のセッションの中で今日と同じような感じで議論ができていければいいのかなと思いますので、反省会に向けて、もう少し建設というのか、議論を前に進むような準備をして臨みたいと思います。

先ほど申しましたようにパネリストを立てるというよりも、みんなで話していきたいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。というわけで、この議論はこの辺にさせていただければなと思います。皆さんありがとうございました。

【本田】　　すいません、そのトラックの提案ですけども、文章がこういうふうにあるのもいいんですけど、要するにそれぞれの考えの何か比較というか、アイデアの比較というのができればいいと思うので、その場で決めるというのが目的じゃないのは承知していますけど。

【前村】　　もちろんそうです。

【本田】　　例えばマトリックスとか、もうちょっとそういう初めて来た方もぱっと分かるように、何かマテリアルな御用意いただければなと、アイデアで思いました。

【前村】　　工夫してみます。それでは、９番、ToDoの確認です。

そうだ、立石さんいらっしゃっていますかね。準備状況のどんな感じだったかって共有していただけると。

【立石】　　すいません、ちょっと私も。

【前村】　　早くから始めちゃいました。

【立石】　　今のところ参加はしてくださる、消費者団体２つほど言って参加はしてくださるんですけど、表には出てこれないということで、聞いてくれるんですけどということで、MyDataJapanさんについてすいません、まだ返事が来ていない状況なのでちょっともう１回確認のメールを差し上げてみます。というかメール以外は接続先が分からないので、この間、山崎さんからも言われていた森先生とかもちょっと押してみます。一応聞いては、参加はしていただけそうなんですけど、中田さんのところはオーケーだといただいているんですけど、ちょっとここに出るというのはまだ全然話が見えていないのでという感じでした。

ひょっとするとほかのところからもやっぱりいきなり最後に、私、お願いの仕方もまずかったかもしれないですけど、ちょっと感想でもいいから５分でもしゃべってくれないかみたいな言い方したんですけど、ちょっとそれがまずかったかなと思いつつ、今のところそんな感じで、どこか二、三か所は、お声がけしているうちの一つはオーケーですし、もう一個も多分大丈夫で、MyDataJapanからはまだ返事が来ていないというところです。

【前村】　　テーマセッション、登壇者が決まり次第お知らせください。組織化議論のセッションは先ほど申したとおりです。

開会／閉会、閉会はもういいかなと言っていましたけど、開会の挨拶の、挨拶していただける方も御確認、飯田さん、よろしくお願いします。

そして2022年度スケジュールという、ちょっと報告会の後の話とはいえ、来年に向けて走り始めるのにという議論もしたんですけど、こちらのほうは、また山崎さんのほうで考えて、何か次のバージョンが出てくる、そんな感じでいいんですかね。

【山崎】　　そのとおりです。

【前村】　　本格体制に関しましては、先ほど言ったとおりに、報告会のセッションで議論できるように、そうですね、本田さんがマトリックス的な考え方の対象が分かりやすいようなということもおっしゃっていましたけども、頑張って準備しようと思います。

さて、次回打合せ、次回のミーティングなんですけども、いつもどおりのアジェンダ、報告会の振り返りとなりますね。本格体制をどうしていくかというのは継続的に議論していくということであります。

本日から３週間後とすれば2月の14日、もともとの開催から３週間後とすると2月の21日となりますけども、どちらがよさそうですかね。声を上げていただく方がいたらそっちになるみたいなそんなシステム、すいません。どうでしょうか、どちらかにお好みがある方がいらっしゃれば、ぜひともよろ

しくお願いします。ないようでしたらもともとの開催の予定の３週間後となると、3週間のケイデンスというのが何かちょっと間延びするような感じがしましたので、2月の14日からでいかがでしょうか。

【堀田】　　14日でいいと思います。

【前村】　　堀田さん、ありがとうございます。それでは、2月の14日とさせていただきます。この次は17時からということでよろしくお願いします。

　それでは、本日も2時間近くやりましたけども、御議論ありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。活発化チーム第13回会合、お開きとさせていただきます。ありがとうございました。

以上